

地域連携NEWS

渚野辺総合病院
メディカルサポートセンター地域医療連携課



❀ 新年のご挨拶 ❀

あけましておめでとうございます。

昨年は、働き方改革問題を皮切りに、2024年診療報酬トリプル改定、病院にとって大変重要な年となりました。

今年も、感染症・高齢者救急対策にも、更に取り組んでいかななくてはならず、医療への不十分な国の物価高騰対策ではますます病院は疲弊してまいります。地域医療を守る観点から更なる政策に期待していきたくと思います。医療の偏在化についても今後議論が展開され施策が打ち出されていくはずで。

いろいろな意味で、今年はさらに大きな変革があり、地域一体となった連携・協働が必要で、それに向けて尽力していきたくと思います。



医療法人社団 相和会
理事長 土屋 敦

新年明けましておめでとうございます。

ここ数年は、新型コロナウイルスやインフルエンザ、手足口病など様々な感染症が、私たちの生活に大きな影響を与えてきました。その中で、私たち医療機関は、地域の皆様の健康を守るため様々な努力を行って来るとともに、その対策を徹底し、患者様に安心してご利用いただける環境を整えてきました。

また、少子高齢化や2025年問題に直面する中で、医療の質を向上させるだけでなく、地域の皆様のニーズに応じた柔軟なサービス提供が求められています。私たちは、患者様一人一人に寄り添い、適切な医療と地域との連携を深めることに注力します。



渚野辺総合病院
病院長 世良田 和幸

謹んで新春をお祝い申し上げます。

渚野辺総合病院は昨年70周年を迎え、改めて病院の沿革に触れる機会を得ました。診療所から始まり、現在では病院、健診センター、介護老人保健施設、クリニックを包括する医療法人のひとつとして渚野辺総合病院は存在するわけです。次の10年、20年に向けて病院を存続させていく責任を改めて痛感した次第です。皆様とともに地域医療を支え発展していくために、変化を恐れず、課題をひとつずつ最後までやり切ることで前進していく1年としたいと考えております。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。



渚野辺総合病院
副病院長
メディカルサポートセンター長
小池 幸宏

2025年の新しい年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

今年は、地域包括ケア病棟のオープンに向けて相模原総合健診センターの古淵への移転、それに伴う職員の異動、院内健診部門の再構築、院内やセンターの改装など、渚野辺総合病院が大きく変わる年になります。今後も医療界を取り巻く環境は厳しさを増し続けることは決定的であり、病院も変化・進化を続けなければいけない時代に突入していることを強く感じます。変化には大きな労力が必要ですが、職員の理解と協力を得つつチーム渚野辺総合病院でスクラムを組み突き進みたいと思います。地域の医療を守る一員としての使命を果たすために頑張りたいと思いますので、今年もどうぞよろしくお願いいたします。



渚野辺総合病院
副院長 阿部 典文

あけましておめでとうございます。新年を迎え謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

地域の皆様、また関係者の皆様におかれましては、日頃より多大なるご理解とご協力を賜り、改めて深く感謝申し上げます。

ここ数年、VUCAの時代という言葉をよく耳にするようになりました。VUCAとは「Volatility: 変動性」、「Uncertainty: 不確実性」、「Complexity: 複雑性」、「Ambiguity: 曖昧性」の4つの単語の頭文字をとった造語です。少子高齢社会という世界に類を見ない状況、新型コロナウイルス感染症、自然災害や戦争等、今まで想像もしなかった問題や出来事であふれています。

このような時代だからこそ、医療・看護の本質を見失うことなく、病院として専門職として柔軟にそれぞれの役割を果たしていくことが大切なのだと考えております。

今年も、地域の方々の健康の維持増進と共に、必要な時に医療・看護が切れ目なく、タイムリーに提供されるよう、地域で活動されている皆様と連携し、渚野辺総合病院として役割を果たせるよう取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。



渚野辺総合病院
副院長
看護部長 横井 弥生

2025

